



S REPORT サステナブルレポート No.104

地球温暖化による 野生生物への影響

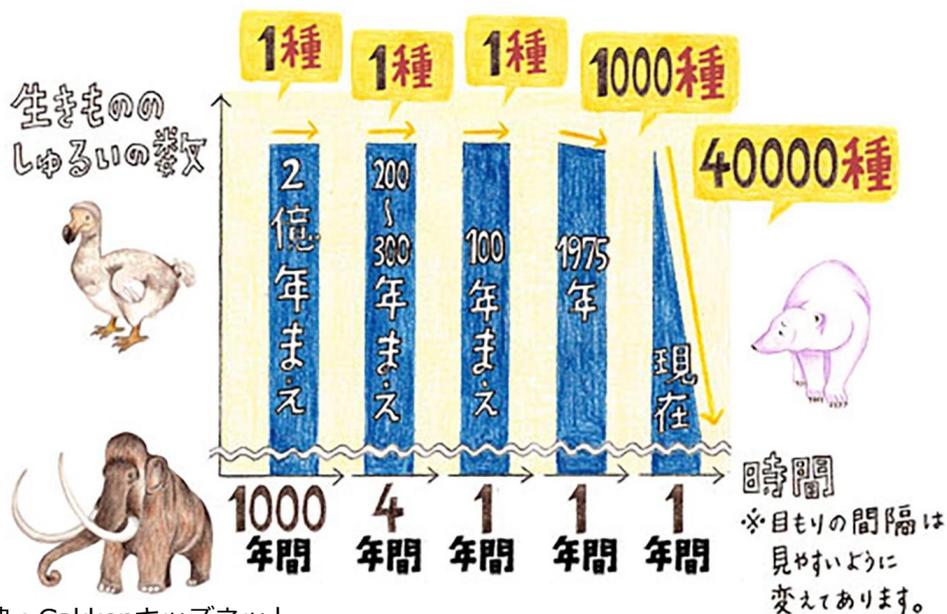
廃棄物

環境サービス

■ 絶滅種と絶滅危惧種の推移

- 野生生物の絶滅は1975年頃から増加し、年間40,000種にのぼる。
- 絶滅危惧種は、2019年に3,676種、2020年に3,716種と微増の傾向にある。
(『環境省レッドリスト2020年』より 13分類合計値)
- 海洋生物で絶滅のおそれのある種は56種。
(『海洋生物レッドリスト』より 海洋の生物に対する関心の高まりを受け、2012年度より作成の作業を進め、2017年に公表)

■ 絶滅スピードの加速



出典：Gakkenキッズネット

■ レッドリストとは

絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。国際的には国際自然保護連合(IUCN)が、国内では環境省のほか地方公共団体やNGOなどが作成している。

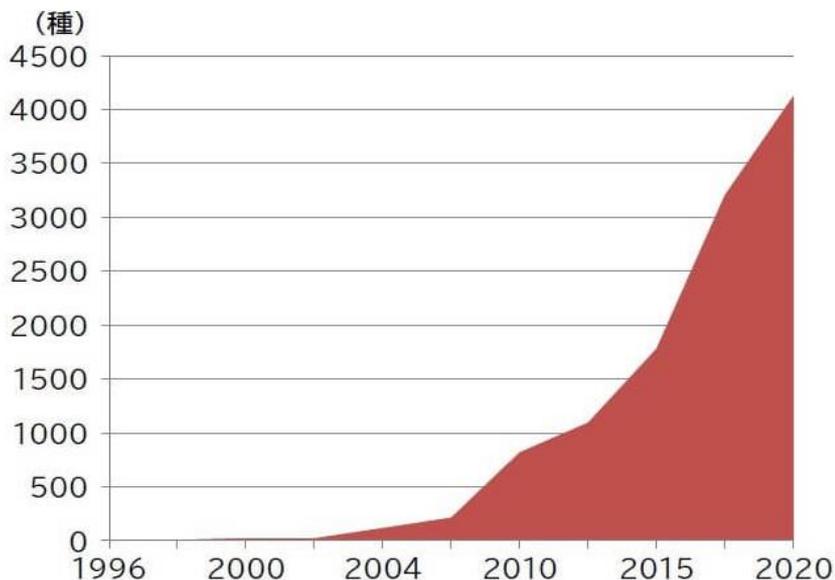
環境省では、日本に生息する野生生物について、生物学的な観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、レッドリストとしてまとめる。

参考：環境省

■ 危ぶまれる野生生物の生息環境

- レッドリストは、絶滅が加速する大きな要因の一つに、地球温暖化による「気候変動」を挙げている。
- 気候変動という地球環境にもたらされる急激な変化は、自然や野生生物に大きな負担となる。
- さらに「乱獲」「生息環境の破壊」「外来種」といった脅威によって危険性がさらに増大している。

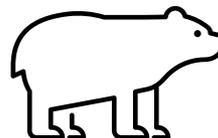
■ 絶滅危惧種の数推移



出典：WWF JAPAN

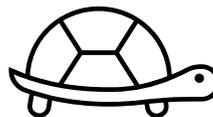
■ 地球温暖化の影響が懸念される事例

ホッキョクグマ



ホッキョクグマの主食はアザラシ。北極の海氷の上で狩りをするが、氷が解ける夏季は、数カ月にとりほぼ何も食わずに過ごす。この為、氷のない期間が長くなると、十分な獲物が獲れず、弱ったり、繁殖できなくなる。

アオウミガメ



アオウミガメの卵は、産み落とされた場所の砂の温度で性が決まる（高温ではメスが生まれ、低温ではオス）。この為、わずかでも気温が上がると、メスばかりが増え、オスとメスのバランスが崩れて、繁殖ができなくなる恐れが生じる。

参考：WWF JAPAN

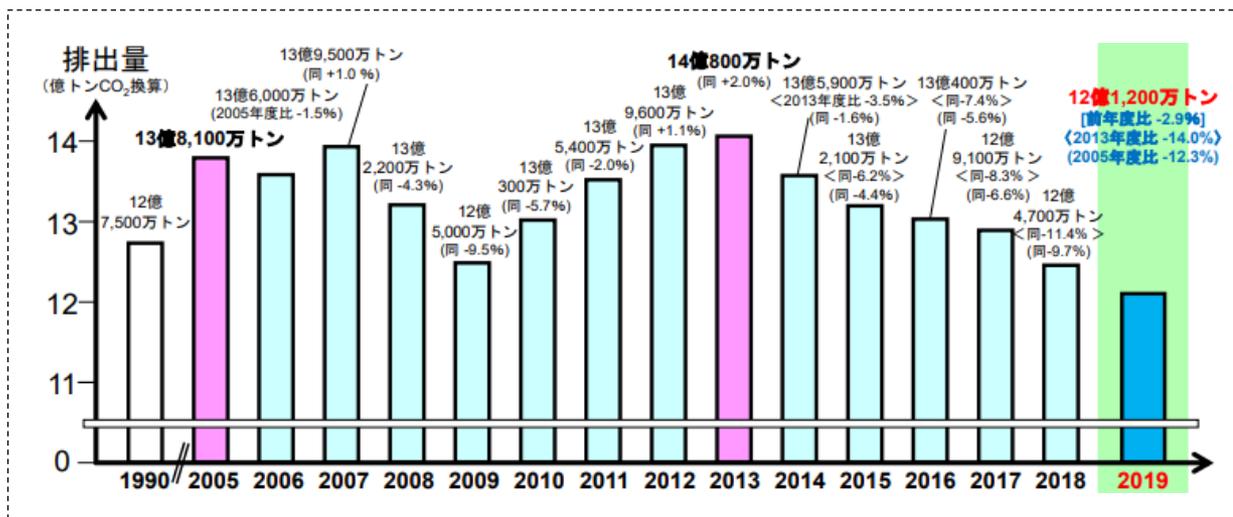
もちろんその影響は人の暮らしにも

■ 日本の温室効果ガス削減目標

- 地球温暖化の要因となる温室効果ガスの削減目標は、2013年度比で2030年に-46%。排出量を12億1200万 t (2019年度) から7億9000万 t 以下に削減する必要がある。
- 「地球温暖化対策計画」の原案では、産業部門の排出量削減の計画値を現行計画7%減から37%減に引き上げ改定する。

■ 日本の温室効果ガス排出量の推移

2014年度以降6年連続で減少、算定開始の1990年度以降、前年度に続き最小更新。



出典：経産省

■ 地球温暖化対策推進本部の取組み



再生可能エネルギーなど
炭素電源の最大限の活用



投資を促す刺激策



地域の脱炭素化への支援



グリーン国際金融センター
の創設



アジアなど世界の脱炭素へ
の移行の支援

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて強まるプレッシャー

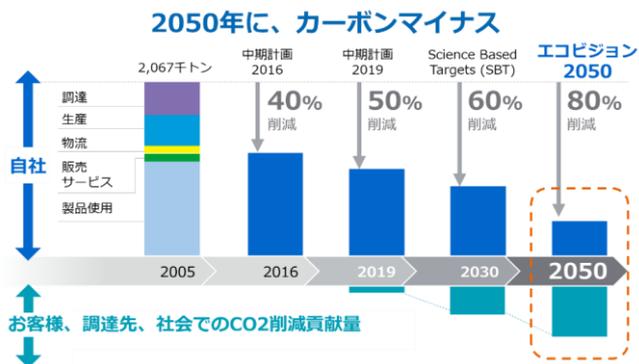
■ 気候変動対策が事業活動にもたらすメリット

- 企業はCO2削減による環境改善の他、「コスト削減」「企業価値の向上」「持続可能な発展」等を図ることで、取組みを継続することができる。
- 多くの企業は自社およびサプライチェーンのCO2排出量を算出する初期段階にあり、改善の試算や円滑な実行のためには第三者の協力が欠かせない。

■ 「第22回環境経営度調査2019」

企業が環境対策と経営を両立させるための取り組みを評価する調査。日本経済新聞社が1997年から実施。第22回調査では、製造業1,731社、非製造業1,318社を対象にアンケート調査が実施され、599社が回答。このうち非製造業の企業は、「環境経営推進体制」、「汚染対策・生物多様性対応」、「資源循環」、「温暖化対策」の4つの指標で評価。

製造業総合ランキング第1位： コニカミノルタ



出典：コニカミノルタ株式会社

運輸部門ランキング第1位： 佐川急便



JR北海道との貨客混載事業

ハイブリッド車

出典：佐川急便株式会社

企業の社会的責任は倫理判断から経営判断へ

■ 希少な野生動植物を保全する「野生生物保護センター」



出典：環境省

- 種の保存法に基づき指定された「国内希少野生動植物種」をはじめとする地域特有の野生生物を対象として、展示や映像等により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究等を総合的に推進するための施設。全国に8箇所。
- SDGsの15番目の目標「陸の豊さも守ろう」の中のターゲットは、生態系の回復と保全、絶滅危惧種の保護と絶滅防止、密漁と違法取引の撲滅、外来種の侵入防止・優先種の駆除根絶があげられている。



**ESG経営の
分析・実行・発信。**

国内外のESG情報を提供し、プロジェクトの提案と支援を行います。

▶ 環境コンサルティング事業

情報提供から実行支援まで
SDGs・ESGの企業対応を
支援しています。

- ✓ 何から取組み始めればいいかわからない
- ✓ 経営層や社員への浸透に悩んでいる
- ✓ SDGs・ESG投資に関する社内セミナーや社員研修を行いたい

無料!

お問い合わせ／お見積もり

お急ぎの方はお電話で

☎ 03-5542-5300

受付時間 9:00~19:30

参照・引用資料

- WWF JAPAN 地球温暖化による野生生物への影響 (<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/286.html>)
- 学研キッズネット (<https://kids.gakken.co.jp/kagaku/eco110/ecology0055/>)
- 環境省 レッドリスト (<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>)
- 環境省 野生動物の保護 (<https://www.env.go.jp/nature/kisho/wildlifecenter/index.html>)
- 環境省 2019年度（令和元年度）の温室効果ガス排出量（確報値）について (<https://www.env.go.jp/press/109480.html>)
- 日経ESG（どう挑む温室効果ガス46%削減） (<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00005/042600071/>)
- 全国地球温暖化防止活動推進センター (<https://www.jccca.org/global-warming/knowledge01>)
- WWF JAPAN 地球温暖化の防止に向けて (<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/1142.html>)

サステナブルレポートに関するお問い合わせ先：

SREPORT 編集部 ☎ 03-5542-5300 ✉ info@sfinter.com

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

Satisfactory



全従業員で
毎週更新中

<https://www.sfinter.com/report/>